

新たな発展を遂げる新商都 米子 を創る

米子市まちづくりビジョン

第4次米子市総合計画及び第2期米子市地方創生総合戦略

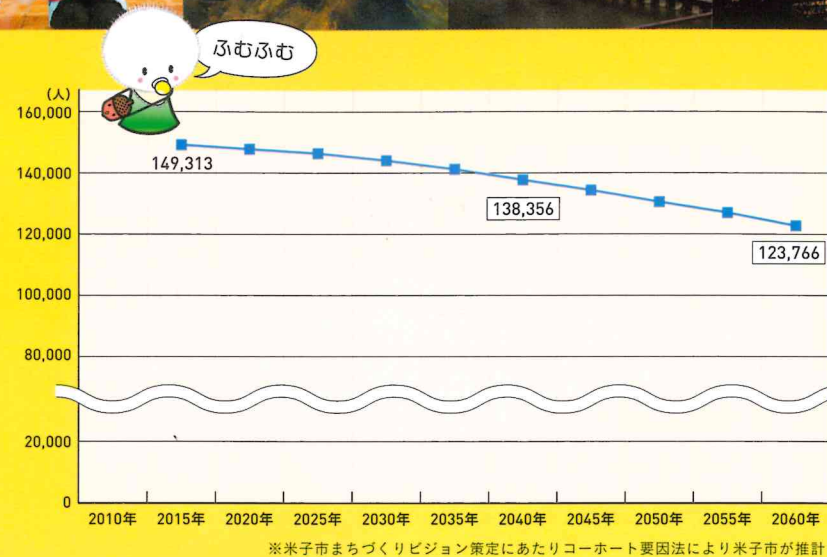
2020▶2029



米子市の人口ビジョン

2015年国勢調査に基づく推計により、2040年、米子市の人口は、138,356人に、そして、2060年においては、123,766人になるという結果がでました。

この結果を、米子市の人口の将来展望として掲げ、今後、人口が減少していく状況の中で、いかに活力を維持していくかという視点に立って、各施策に取り組んでいきます。



市長からのメッセージ

2040年に鳥取県の人口は現在より約12%減少し、48万9千人になると推計されています。米子市においても約7%減少し13万8千人になると推計されており、これからの20年、私たちは本格的な人口減少時代を歩んでいくことになります。

また、2040年は、いわゆる「団塊ジュニア」の世代が高齢者となる時期でもあり、高齢者人口はピークを迎え、これが少子化の継続と相まって、1人の高齢者を1.5人の現役世代で支えるという、最も世代間のバランスが崩れる時代がやってきます。この時期には、若年労働力の絶対量が不足するとみられることから、これを「2040年問題」と称して各方面でその対策が議論されています。

国においては、総務省がこの2040年問題乗り越えるために「自治体戦略2040構想研究会」を立ち上げ、人口減少下において満足度の高い人生と人間を尊重する社会をどう構築するかについて議論を始めています。そこでは、「スマート自治体への転換」や「公共私によるくらしの維持」、「都道府県・

市町村の二層制の柔軟化」などの課題が話し合われています。自治体そのものをスリム化しつつもその機能を維持し、様々な社会の課題を行政だけでなく、そこに暮らす人々の連携で解決を図っていくことなど、私たちは時代の変化を見据えた転換点を自ら作っていく覚悟が求められています。

米子市では、こうした時代を乗り切るため、縮小していくだけの発想に陥ることなく、中国をはじめ大きく発展するアジア諸国の成長を取り込んで地域経済の発展を図り、市民福祉を向上させながら2040年を迎えたいと思います。そのころに、米子市が輝ける地方都市であるために、これからの10年で何を成し遂げていくべきか、様々な角度から検討を重ねた中で、特に重要な項目を掲げて作成したのがこのたびの「米子市まちづくりビジョン」です。このビジョンに基づき、試行錯誤を重ねながらも個別の施策を確実に実行していくことで、米子の未来が開けるものと思います。

米子市長 伊木隆司

もっと詳しい
内容はここから

米子市まちづくりビジョン 2020

検索



米子市まちづくりビジョン (令和2年3月)

米子市役所 総合政策課 〒683-8686 鳥取県米子市加茂町一丁目1番地(市役所本庁舎4階) TEL:0859-23-5319 FAX:0859-23-5392



1 基本目標

交通基盤の充実と 人が集うまちづくり

山陰の交通の要衝、東アジアのゲートウェイとして、交通基盤の整備の充実を図るとともに、地域公共交通を中心としたコンパクトプラスネットワーク*のまちづくりを推進することにより、人が集い、活気のある交流のまち「米子」をめざします。

※都市機能を都市の中心拠点や生活拠点に集約することと拠点間のアクセス確保のための公共交通の維持・充実を一体的に検討すること

基本方向

- ・地域公共交通体系の確立
- ・米子駅周辺整備の推進
- ・中心市街地のにぎわい創出 など



2 基本目標

市民が主役・共生の まちづくり

市民の柔軟で自由な発想・活力を引き出し、共にまちづくりを推進するとともに、誰もが住み慣れた地域の中で安心して暮らせるよう、人権を尊重し、つながりを持って支え合う共生のまち「米子」をめざします。

基本方向

- ・市民参加及び民間事業者等との連携協力
- ・障がい者(児)福祉の充実と共生社会の実現
- ・鳥取大学医学部及び米子工業高等専門学校等との連携 など



3 基本目標

教育・子育ての まちづくり

安心して子どもを生み育てられるよう、子育て支援や学校教育の充実に取り組むことにより、未来のまちづくりを担う子どもたちが健やかでたくましく育つまち「米子」をめざします。

基本方向

- ・子どもの特性や発達に合わせた適切で切れ目ない支援
- ・学校施設の整備・充実
- ・ふるさと教育の推進 など



4 基本目標

「住んで楽しいまち」とは、誰もが生きる喜びを感じられ、人生の充実感を得ることができるまちです。人生の喜びや充実感、人が成長し、物事が前進し、まちが発展するとき

米子市では、古くから「交通の要衝」と呼ばれた地の利を活かし、人々が進取の精神で物事に挑戦し、開放的な市民性ととも「商都米子」を築いてきました。

これからの時代に、米子市が21世紀に燦然と輝く地方都市として新たな発展を遂げるためには、米子の



住んで楽しいまち よなご

～新商都米子の創造に向けて～



4 基本目標

地産外商・所得向上の まちづくり

地域資源や地域産業をいかしたまちづくりを推進し、地産外商の取組等によりビジネスチャンスを広げ、地域全体で所得の向上を図ることで、稼げるまち「米子」をめざします。

基本方向

- ・地元企業の振興と地域産業の活性化
- ・皆生温泉のまちづくり
- ・農業基盤整備の推進 など



5 基本目標

歴史と文化に根差した まちづくり

米子市の歴史・文化資源を保存・活用することにより、その価値や魅力を市民はもとより多くの方と共有し、にぎわいがあって、心豊かに暮らせるまち「米子」をめざします。

基本方向

- ・米子城跡の保存・活用・整備と魅力発信
- ・芸術文化活動の推進
- ・淀江地域における歴史・地域資源の活用 など



6 基本目標

スポーツ健康 まちづくり

スポーツに親しむことができる環境づくりや健康増進、フレイル*対策等に取り組むことにより、人生100年時代に誰もがずっと元気で健康に暮らせるまち「米子」をめざします。

※加齢により心身が衰えた状態のこと。運動・栄養・社会参加により、予防できるといわれています。

基本方向

- ・スポーツを通じた地域の活性化
- ・生活習慣病予防の推進
- ・介護予防・フレイル対策の推進 など



7 基本目標

災害に強い まちづくり

公共インフラ施設など快適な生活環境の整備や豊かな自然環境の保全を図り、また、市と市民が丸となって防災・減災に取り組むことにより、快適で災害に強い安心・安全なまち「米子」をめざします。

基本方向

- ・公共インフラ施設の整備
- ・地域防災力の充実強化
- ・環境保全活動の推進 など



(撮影者) 中海水鳥国際交流基金財団